

令和3年度当初予算

# 市長説明

前橋市



令和3年度当初予算案の概要について、ご説明申し上げます。

令和3年度当初予算編成においては、新型コロナウイルス感染症の拡大やデジタル化の進展など、現在の社会状況の変化を踏まえて改訂する「第七次前橋市総合計画」、さらには、新たに策定した「前橋市国土強靱化地域計画」に基づく、ハードとソフト両面からの施策を着実に推進するとともに、地方創生やまちづくりのキーワードである「地域経営」の理念を継続し、このコロナ禍においても、本市が、将来都市像「新しい価値の創造都市・前橋」の実現に向けて前進できるような予算として、まとめたところであります。

それでは、当初予算案の概要について、ご説明申し上げます。

本市の令和3年度一般会計の歳入歳出予算は、新型コロナウイルス感染症対策を踏まえ、

1,563億6,448万円で、対前年度8.3%の増となっております。

はじめに、歳入であります。新型コロナウイルス感染症の影響などにより、市税収入のうち個人市民税は、前年度と比べ約13億4千万円の大幅な減額を見込んでおり、法人市民税についても、同様に、約11億9千万円の減額を見込んでおります。

固定資産税は、同じく、新型コロナウイルス感染症に関する税制措置などにより、約27億3千万円の減額を見込んでおります。

これらに、都市計画税や事業所税等を合わせた市税収入全体では、対前年度9.8%減となる約483億2千万円を見込んでおります。

次に、地方消費税交付金は、コロナ禍の経済情勢のもと、消費動向が不安定であることから、前年度と比べ4億円の減額を見込んでおります。

地方交付税は、原資となる国税が減収し、臨時財政対策債へ振り替えられたことなどを踏まえ、前年度に

対して3億円の減額を見込んでおります。

国庫支出金は、国の第三次補正予算に伴う令和2年度予算への前倒しや上武道路の「道の駅」アクセス道路の工事進捗に伴う減額などがある一方、新型コロナウイルスのワクチン接種事業の実施による増額などもあり、前年度と比べ約10億2千万円の増額となっております。

市債は、六供清掃工場の予防保全工事や西消防署利根分署の建設工事の終了などの減要素はあるものの、臨時財政対策債などの増要素が大きいことから、前年度と比べ約13億7千万円の増額となっております。

次に、歳出であります。第七次総合計画で定める6つの「まちづくりの柱」に沿って、主要な事業や、関連する事業についてご説明いたします。

## 1 教育・人づくり

ふるさとを愛し、多様性を尊重する心豊かな人間性を育むとともに、あらゆる世代が共に学び、支え合えるまちづくりに取り組んでまいります。

「個性を伸ばし、主体性を育む人づくり」、「学び合い、高め合う人づくり」では、「GIGAスクール構想」により全ての児童生徒に配備されたLTEモデルの端末の特徴を最大限に活用し、情報活用能力のさらなる育成に取り組んでまいります。

また、小学校の教科指導講師の配置や中学生を対象とした地域寺子屋事業を継続するとともに、特別支援学級の介助員を増員するなど、多様な児童生徒に応じた学習環境の整備を引き続き進めてまいります。

また、春日中と広瀬中の統合校である明桜中が、この4月に開校することから、校務補助員及びスクールアシスタントを新たに配置し、統合校のスタートを支援してまいります。

このほか、前橋駅北口のアクエル前橋に、高校生のための学習スペースを設置し、自主的な学習活動を支援いたします。

学校給食施設では、老朽化した西部共同調理場の延命化を図るため、大規模改造の第1期工事に着手

するほか、東部共同調理場の調理等業務について民間委託を開始し、民間活力の導入を進めてまいります。

社会教育施設の整備では、老朽化した永明公民館の移転新築工事を引き続き進めてまいります。

「ふるさとを愛し、未来へ繋げる人づくり」では、国指定重要文化財である臨江閣の維持補修や総社古墳群などの調査を進め、文化財を市民全体の宝として後世に伝えてまいります。

## 2 結婚・出産・子育て

結婚や出産の希望をかなえられ、子育てを楽しむことができるまちづくりに取り組んでまいります。

「結婚や出産に対する支援の充実」では、結婚を望む方を対象とした相談・支援事業の充実を図ります。

また、医療費が高額な体外受精及び顕微授精などの特定不妊治療を行う方の治療費や、双子など多胎児を妊娠した方の妊婦健診費用の助成を充実いたします。

「子育て支援の推進」、「子育てと仕事の両立支援」

では、産後の疲労や育児への不安を抱えた産婦へのケアに、訪問型を新たに加えるとともに、産後うつ予防などを目的とした産婦健康診査を引き続き実施いたします。

また、本市が独自に行っている、おたふくかぜの予防接種費用の無料化や、第3子以後の保育所等の副食費の無料化により、子育て世帯の経済的な負担軽減を図ってまいります。

さらには、民間保育所や認定こども園において子供の見守りや事務補助などを行う、保育支援員の配置を引き続き支援し、保育士の働きやすい環境づくりと保育体制の強化を推進いたします。

このほか、放課後児童クラブの充実を図り、子供が安心して過ごせる環境を整備するとともに、市内4か所で病児保育を継続し、働きながら子育てできる環境づくりに取り組んでまいります。

### 3 健康・福祉

生涯を通じた健康づくりを推進するとともに、誰もが自分らしく生きがいを持ち、共に支え合いながら活躍できるまちづくりに取り組んでまいります。

「地域包括ケアの推進」、「健康づくりと介護予防の推進」では、高齢者の保健事業と介護予防を一体的に進める事業を新たに実施し、高齢者のフレイル予防などに取り組んでまいります。

また、前橋版生涯活躍のまちの推進として、日赤病院跡地への夜間急病診療所と福祉作業所の移転新築に向けた土地造成工事などに着手いたします。

そして、収束の見通せない新型コロナウイルス感染症対策として、市民へのワクチン接種や発熱・PCR検査外来などに、市医師会及び各病院等と連携して取り組むほか、各種健康診査及びがん検診の受診率向上にも引き続き取り組んでまいります。

障害者福祉では、常時支援が必要な障害者の緊急時に対応するため、委託相談支援事業所にコーディネーター

機能を追加するなど、緊急時の調整や受け入れ体制等の充実に努めてまいります。

また、子供の福祉医療費の支給について、18歳までの入院医療費の無料化を新たに開始し、福祉の増進を図ってまいります。

#### 4 産業振興

市民それぞれが個性を活かして活躍できるビジネスチャンスにあふれたまちづくりに取り組んでまいります。

「地域産業の基盤強化・活性化」では、新型コロナウイルス感染症に対応する経済対策として、引き続き中小企業や小規模事業者の資金繰りを支援するとともに、キャッシュレス決済を活用したポイント還元事業による市内事業者の支援に新たに取り組むほか、設備投資に対する補助を継続し、経営力の強化を図ってまいります。

企業誘致では、新たな産業用地として、「西善中内

産業用地」の立地企業の公募や造成工事を開始するほか、「駒寄スマート I C 産業団地」の基本設計業務等を進め、さらには、次期産業団地の開発についても検討を実施してまいります。

「働く意欲と機会の創出」では、市内でサテライトオフィスを開設する市外事業者への補助を拡充し、コロナ禍に対応した多様な働き方の促進に努めてまいります。

「魅力ある農林業への転換」では、農業の担い手の確保・育成のため、認定農業者等に対する機械の導入や施設整備の支援を継続するほか、集落営農組織等に対して、農業用ドローンなどを活用したスマート農業の導入経費の補助を新たに実施し、農業経営の安定化を支援してまいります。

ほ場整備では、老朽化した農業用水路等の長寿命化のための改修工事に取り組むとともに、上細井<sup>ちゅうせいぶ</sup>中西部地区の土地改良事業をはじめとした農村環境の整備を引き続き進めてまいります。

また、森林環境譲与税を活用し、民有林の整備や木材利用の促進、担い手の育成・確保などに新たに取り組み、森林整備を総合的に推進してまいります。

## 5 シティプロモーション

地域の魅力を創造・発信し、誰もが訪れ、住み続けたいまちづくりを進めてまいります。

「地域資源を活かした新たな観光振興」では、上武道路の「道の駅」について、農産物直売所などの施設建築工事等を進めてまいります。

また、赤城山観光の担い手となる観光地域づくり法人（DMO）の活動を引き続き支援するほか、スローシティの推進を図るため、地域資源を活かした取組を行う民間団体等を支援いたします。

歴史文化遺産の活用では、前橋四公にまつわるイベントの開催や、「世界かんがい施設遺産」に登録された天狗岩用水のPR等により、本市ゆかりの歴史と文化に立脚した地域づくりを推進いたします。

文化芸術拠点の活用では、前橋文学館における、令和4年度の「萩原朔太郎没後80年の記念事業」に向けた準備や様々な企画展などを開催するほか、一時休館するアーツ前橋の照明のLED化改修等を行い、市民が芸術文化に親しめる環境の充実を図ってまいります。

スポーツ振興では、7月から予定されている東京オリンピック・パラリンピックのホストタウンとして、関係各国の直前合宿等の受け入れ体制を整えるとともに、南スーダン陸上選手団の軌跡を、「スポーツを通じた平和促進」のレガシーとして、後世に繋いでまいります。

このほか、市民体育館にボルダリング用の設備を設置するなど、スポーツ施設の整備にも引き続き取り組んでまいります。

「移住・定住促進」では、移住コンシェルジュと連携し、赤城南麓地域の魅力や民間事業者の活動情報を広く発信するほか、空き家のリフォームによる二世帯近居

・同居を引き続き支援し、ソフト・ハードの両面から、移住・定住促進を進めてまいります。

また、産学官連携によるリカレントスクールを開講し、市内企業の人材育成や若者の活躍・定着の支援を進めてまいります。

「市民主体の魅力づくりの推進」、「魅力的なまちづくりの推進」では、中心市街地における民間再開発事業の支援や、広瀬川河畔の再整備に引き続き取り組むとともに、まちなかにおける開業支援等により、まちなかの魅力向上と中心市街地の活性化を図ってまいります。

## 6 都市基盤

人口減少・少子高齢社会に対応した都市基盤を構築し、将来にわたって安全で安心して暮らせるまちづくりを推進いたします。

「都市機能の集約と拠点性の向上」では、機能的な土地利用や防災機能の向上を目指し、12地区における

土地区画整理事業を引き続き進めてまいります。

「交通ネットワークの充実」では、既存のバス路線や鉄道の維持対策、マイタクの利用支援を継続するとともに、乗りたいバスの到着がひとめで分かるバスロケーションシステムを導入いたします。

また、既存のレンタサイクルとコミュニティサイクルを統合したシェアサイクル事業に新たに取り組むほか、市民のあらゆる移動手段を最適化するM<sup>ま</sup>a<sup>ー</sup>a<sup>す</sup>Sの前橋版である「M<sup>ま</sup>a<sup>え</sup>M<sup>ま</sup>a<sup>ー</sup>a<sup>す</sup>S」の実現に向け、さらなる環境整備を進めてまいります。

さらに、群馬総社駅西口の開設に向け、2か年にわたる調査・基本設計や住民参加型の駅舎デザイン作成に着手し、公共交通の利便性向上と暮らしやすいまちづくりに取り組んでまいります。

道路整備では、都市計画道路の整備や、新市建設計画及び新市基本計画に位置付けられた路線の整備、橋りょうや舗装の長寿命化修繕計画に基づく維持修繕などに引き続き取り組み、持続性の高い都市基盤の整備を進めてまいります。

「環境配慮型社会の形成」では、「絆でつなぐ環境基金」を活用し、家庭における新エネ・省エネ機器の設置に対する補助や、有価物集団回収実施団体への奨励金を継続し、環境対策に取り組む市民や団体を広く支援いたします。

このほか、新最終処分場の建設に向けて、引き続き基本計画の策定を進めてまいります。

「安全・安心なまちづくりの推進」では、消防力の充実・強化のため、消防車両を計画的に更新するとともに、上武道路の「道の駅」に消防団車庫詰所を移転新築いたします。

水道事業では、災害発生時に重要な役割を担う病院及び防災拠点などに給水する管路の耐震化を計画的に進めるほか、敷島浄水場の場外排水路更新工事を実施いたします。

下水道事業では、緊急度の高い重要な下水道管渠<sup>かんきょ</sup>の計画的な耐震化を進めるとともに、六供町の水質浄化センターの更新に向けた基本設計業務を引き続き

進めてまいります。

これらのほか、行財政運営の面では、令和元年度からの新たな行財政改革推進計画で掲げた「民間委託等の推進」、「業務改革・事務改善」、「公共施設の効率化・最適化」の3つの方針のもと、RPA（ロボティック・プロセス・オートメーション）の導入などに引き続き取り組むとともに、マイナンバーカードの普及をさらに促進し、デジタル社会の実現へ向けたIT化の推進にチャレンジしてまいります。

以上が予算に盛り込んだ主要な施策であります。

今回の当初予算編成では、新型コロナウイルス感染症の影響により、市税収入など歳入面での大幅な減収が見込まれる厳しい財政状況の中でも、市民の暮らしや健康を守る施策の維持を最優先として、一層の経費縮減などの財源確保に取り組んでまいりました。

今後ともコロナ対策の長期化や高齢化に伴う医療、介護等の社会保障費も増加が見込まれております。

このため、財政の健全化には、引き続き十分に留意しながら、「新しい価値の創造都市・前橋」の実現に向けて、職員が一丸となってそれぞれの施策に取り組むとともに、市民の皆さんと一緒に、このコロナ禍による変革と「スーパーシティ」及び「スローシティ」によるまちづくりに、勇気をもってチャレンジすることが私の役割と考えております。

議会の皆様におかれましては、新しい体制のスタートとなりますが、引き続きご支援、ご指導を賜りますようお願い申し上げます。

以上、当初予算案の大要について、ご説明いたしました。